

第5章 理想像と目標設定

5-1 理想像

今後の水道事業は人口減少や節水機器の普及などにより、さらに水需要が減少することが予想されています。しかし、今後、老朽化する施設や管路の更新、施設の耐震化など、取り組むべき施策は多く、水道事業を取り巻く環境が一層厳しくなることは間違いありません。このような状況においても、安全で良質な水道水を安定的に給水し続ける必要があります。

本ビジョンでは、50年後、100年後の

『 将来においても安全で安心な水道水を継続して供給する 』

ことを理想像とします。

5-2 目標設定

設定した理想像を具現化するために、「安全」、「強靱」、「持続」のそれぞれの観点から本市の実情を踏まえた目標の設定を行います。

「安全」とは、全てのお客さまが、いつでもどこでも、水を安全に飲める水道の確保。

「強靱」とは、自然災害等による被災を最小限にとどめ、被災した場合であっても、迅速に復旧できるしなやかな水道の確保。

「持続」とは、給水人口や給水量が減少した状況においても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道の確保。

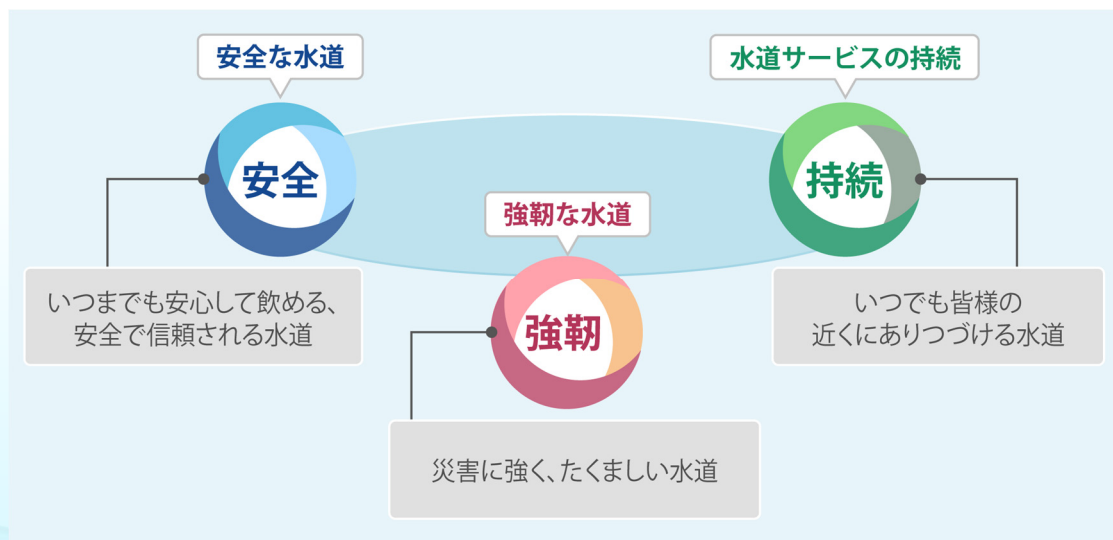


図 5-1 城陽市水道事業の理想像



いつまでも安心して飲める、安全で信頼される水道

安全面においては、現状で大きな課題はありませんが、今後も信頼できる水質をもって水道水を給水します。より安全な水道水の実現のため、以下の指標について改善の目標値を設定します。

表 5-1 成果を示す指標または成果の状況「安全面」

目標設定	指標	PI番号	単位	優位性	平成28年度	平成39年度
安全性に関する 情報公開の充実	水安全計画の公表	—	—	▲	平成 29 年度 作成	公開
	毎月検査の結果の公表	—	—	▲	一部公開	公開
適切な薬品管理	次亜塩素酸ソーダの温度上昇抑制対策	—	—	▲	未整備	整備済
貯水槽水道の指導	指導・助言の充実	—	—	▲	継続実施	充実

※優位性 「▲」:高いほど良い 「▼」:低いほど良い 「—」:いずれでもない



災害に強く、たくましい水道

強靱面における課題は耐震化率の改善です。また、耐震化率の改善に加え、災害時等に対して、安定した水源を確保し、お客さまへの速やかな応急給水の提供が行えるよう、給水場所等の情報提供の充実も図ります。そのため、以下の指標について改善の目標値を設定します。

表 5-2 成果を示す指標または成果の状況「強靱面」

目標設定	指標	PI番号	単位	優位性	平成28年度	平成39年度
耐震性の確保	浄水施設の耐震化率	B602	%	▲	78.2	100
	ポンプ所の耐震化率	B603	%	▲	93.3	100
	配水池の耐震化率	B604	%	▲	73.2	100
	基幹管路の耐震適合率	B606	%	▲	24.1	70
緊急遮断弁の設置	緊急遮断弁設置数	—	基	—	0	1
お客さまへの 情報提供の充実	水道危機対策マニュアルでの給水場所の公表	—	—	—	公表	充実

※優位性 「▲」:高いほど良い 「▼」:低いほど良い 「—」:いずれでもない



いつでも皆様の近くにある水道

持続面における課題は適切な維持管理および更新です。また、水道事業の持続的な経営には収入の裏付けも必要であり、水道料金の適正化も必要です。そのため、以下の指標について改善の目標値を設定します。

また、引き続き、漏水箇所等の早期発見等の施策を実施し、漏水率を抑制し、水資源の有効利用を図ります。

表 5-3 成果を示す指標または成果の状況「持続面」

目標設定	指標	PI番号	単位	優位性	平成28年度	平成39年度
適切な更新計画	法定耐用年数超過設備率	B502	%	↓	47.4	50
	管路の更新率	B504	%	↑	0.5	0.6
水資源の有効利用	有収率	B112	%	↑	98.5	現状維持
適正な料金	給水収益に対する企業債残高の割合	C112	%	↓	442.4	320
	給水人口1人当たり企業債残高	—	円	↓	62,719	55,000
	企業債残高実数	—	百万円	↓	4,843	4,000 以下
	料金回収率	C113	%	↑	97.1	100 以上

※優位性 「↑」: 高いほど良い 「↓」: 低いほど良い 「—」: いずれでもない

【コラム②】水道管の耐震化について

水道管は、浄水場からお客さまのお宅まで、水道水を届ける働きをしています。地震により管が破損すると、水道水を届けることができなくなり、断水が発生します。そのため、地震時においても安定して水道水をお届けできるよう、地震に強い水道管（耐震管）に交換する必要があります。

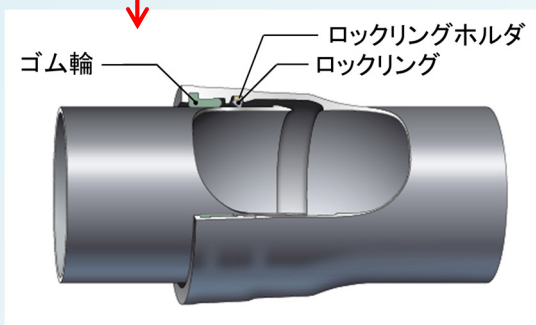
耐震管は、継手部に高い伸縮性を備えていて、地震の力を受けても抜け出さない構造になっています。

水道管は城陽市の水道事業が所有している資産の5割以上を占めるため、水道管の耐震化には多額の費用と、長い期間を要します。そのため、水道管路の中でも被害が発生した場合に影響が大きくなる基幹の水道管路から着実に耐震化を進めていきます。



【耐震管】

耐震管をつなげて、吊り上げてても継手部が抜けない



【継手部の拡大図】

ロックリングが抜け出しを防止



【東日本大震災の津波による道路崩壊の様子】

継手部が抜けず、耐震管の被害はなかった

出典）（一社）日本ダクティル鉄管協会